

令和5年度第3回 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会 議事録

日 時：令和6年3月21日（木） 午後3時30分～4時30分

場 所：秋田市役所6階 6-A会議室

委員の定数：13人

出席委員：12人

欠席委員：1人

事務局：4人

議 事：

1 開会

2 議事

(1) 令和5年度の事業実施状況について

資料1をもとに事務局から説明を行った。

(委員長) 議事(1)について、ご意見や質問等はないか。

(委員) ワークショップについて、参加者数が昨年より減少している。開催を夜の時間帯に限らず行ったということだが、開催場所はどこか。

(事務局) 開催日に使用できる部屋で開催したので、第1回目は正庁、第2回目は委員会室、3回目は6-A会議室で行った。  
祝日にも実施したが、すでに予定が入っておりワークショップ参加に至らなかったようである。

(委員長) ほかにあるか。

(委員) 同じくワークショップの広報の仕方についてだが、講演会には、多くの学びたい人が集まっているので、そうしたところでワークショップの広報をすることや、高齢者に限らず勉強会が行われているような場所にチラシを設置すると、関心のある人がもっと集まると思う。

(事務局) なかなか日にちの調整が困難であったため、講演会の日程とチラシの作成などが合わなかったりするが、今後は工夫していきたい。

(委員長) ほかにあるか。

(委員) 長年この委員会に参加してきて、年々充実してきていることに喜びを感じている。その中で、スタンプラリーの効果と課題について、

例えば、お店同士の横の繋がりや、参加店を紹介し合うなど、スタンプラリーに参加している市民に途中でスタンプラリーを挫折させない工夫などには何かあるか。

(事務局)                   それはパートナー店舗毎の横の繋がりという意味か。

(委員)                    そうである。

(事務局)                   パートナー店舗の横の繋がりという意味では、商店街内での店舗の交流はあるように思うが、商店街を越えたところでは、意見交換したりは出来ていないと思う。ただ、スタンプを押す際に、その前にどこで買い物したかは把握できるようになっている。また、パートナー交流会も、スタンプラリー参加店舗の参加は、自店の営業もあり難しい状況である。

(委員)                    スタンプラリー自体は真新しいものではないが、こうしたものを地道にやっていくことがすごく大切だと思う。だからこそパートナー店舗間で、紹介し合いながらやっていけばより良いものになると思う。

無理なことをする必要はないので、その辺を頭に入れてまた実施してほしい。

(委員長)                   そのあたりは商売のかたの力量にもよるが、ぜひ事業者へ声かけをしていけたら良いと思う。

(委員長)                   ほかにあるか。

(委員)                    スタンプラリーの年代別・男女別応募者数の資料の中で、90代の参加者が13人おり、昨年から10人も増加しており驚いたが、70歳代以上を見てみると、人数的には減少している中で、この参加数はなかなかのウェイトだと思うし、PRの努力の結果がこうした形で出てきたのではないかと思う。今後もこのように頑張ってもらいたい。

(委員長)                   年齢の high かたも参加できていることは、とても良いことである。

## (2) 令和6年度の事業予定について

資料2をもとに、事務局から説明を行った。

(委員長)                   来年度の第2回推進委員会は、パートナー事業者表彰選考があると事務局から説明があったが、選考委員のうち、エイジフレンドリ

ーシティ行動計画推進委員の2名の公募委員の中から、6年度は委員にお願いしたいと思うが、承認してもらえるか。

(委員) 異議なし

(委員) 確認だが、何人かいる内の1人ということで間違いないか。

(事務局) 5名の選考委員の内の1人である。よろしくお願いします。

(委員長) 議事(2)について、ご意見や質問等はないか。

(委員) パートナーコラボ出張講座に関して、料金が発生するものか、もしくは何か市民の側が事前に準備が必要か、あるいは資料に記載の通り対象を高齢者学級などに限って開催するものなのか教えてほしい。

(事務局) 6年度は、市民サービスセンターの高齢者学級を対象に行い、事業者や市民のかたの反応をみて、対象や実施内容の変更も検討していくこととしている。また、一部体験の材料費のみ発生するが、その他の、市民の費用は無料である。

(委員長) ほかにあるか。

(委員) 同じくコラボ出張講座に関して、今年度の申し込み締切りは4月30日となっているが、短いように思う。例えば随時にするとか、申込期間はもう少し長い方が良いと思うがどうか。

(事務局) 今年度の対象の高齢者学級は年度の初めにすべて年間の計画が決まってしまうため、この締切りとなった。次年度以降事業の見直しの中で、募集対象や随時募集など検討していければと考えている。

(委員長) ほかにあるか。

(委員) パートナー表彰選考委員の件で、以前も話したかもしれないが、選考基準に関して、アイデア度、継続性・発展性、模範度、市民志向、貢献度というのは、これまでと変わっていないか。

選考の際には経験上、自分自身の中の傾向としてアイデア度や模範度に目が行きがちになるが、地域の中でやっていくということであるとすると、継続性・発展性、市民志向、貢献度の項目がその地域に根ざし、それらの取組がエイジフレンドリーシティの活動を盛り上げていく一番の基本になるものだと考える。採点のウエイトなどはよく検討してほしい。

- (事務局) これまではアイデア度の配点が大きかったが、今後のウエイトの置き方に関しては、もっと話し合っていきたい。
- (委員長) それは選考委員の中で改めて話し合うということか。
- (事務局) 配点のウエイトについては、選考委員の中で話し合うべきかも含めて検討していきたいと思っている。
- (委員長) ほかにあるか。なければ事務局から追加の説明事項について、説明をお願いします。
- (事務局) 資料外だが、関連として今後の事業についても委員の意見を伺いたい。先日終了した2月議会において、議員からの質問や意見を一部抜粋して報告する。1つは「エイジフレンドリーシティに取り組んでどう変わったか見えにくい」というもの。これは日々生活している一般市民の方々が秋田市内でエイジフレンドリーシティを実感出来るものとして、ハード、ソフト面どちらでも構わないので、長年関わってこられた委員の皆様に意見を頂戴したい。
- また2つ目は、「エイジの日」イベントの名称について、エイジフレンドリーシティをエイジと省略するのはどうなのか、また短くしたとしてもエイジをアルファベット表記にしたり、エイジの日をエイジデイとするのはどうかなどの意見があった。イベントについては、今後名称も含め内容も検討していくものであるが、こちらについても意見を頂戴できればと思う。
- (委員長) 定期的に指標を使って進捗を報告している形だとは思いますが、さらに目に見えて何か成果として言えるものや知られるものはあるかというのが1点、2点目はエイジの日のイベントの名称についてだが、分かりやすく、親しみやすくという意味合いかと思われるが、なにかこの点についても意見やアイデアはあるか。
- (委員) 名称の話で、英語にするというのは、かえってとっつきにくくなる。逆に言えば、エイジは和製英語のようなもので、正しい英語表記にすると、かえって意味が通じなくなってしまうことも考えられるので、英語表記は適切だとは思わないが、イベント自体の名称として、より市民のかたに伝わりやすく親しみを持ってもらえるようなものを考えるということには、賛成である。
- (事務局) 担当内では、「エイジの日」の名称は続けていき、定着させたいと考えていたため、委員の皆様にご意見を頂こうとしたものである。

- (委員) 「エイジフレンドリーシティ」という言葉は、当初から分かりづらい、理解しづらいという話があり、「高齢者にやさしい都市」や「高齢者にやさしいまちづくりエイジフレンドリーシティ」という表現を行っていたが、最近はその日本語の部分が付かなくなっている印象もあり、エイジフレンドリーシティを英語表記にすれば、ますます分かりづらくなってしまう。「高齢者にやさしい日」などもっと単純な名称でも良いと思う。
- (委員) エイジフレンドリーシティというのは、必ずしも高齢者だけがいきいき暮らせるまちではなくて、高齢者にやさしいまちは、全世代にとってフレンドリーであって、お互いを尊重し合えるシティだと思う。私自身も高齢者なので、「高齢者にやさしい日」はうれしいが、それでは高齢者だけのものと捉えられてしまうということが危惧される。エイジフレンドリーシティの定義についても市民に理解してもらう日でもある。主催者側もそれをきちんと踏まえた名称にする必要がある。いきいきエイジの日のほうが良い。
- (委員長) エイジフレンドリーシティの目に見える成果については意見あるか。
- (委員) 発言の文脈や意図は分からないが、その発言者がエイジフレンドリーシティについて知らないか、当局の説明不足なのか、どういった背景でそのような発言があったのか。
- (事務局) エイジフレンドリーシティについてよく知っており、自分はどう変わってきたかわかるが、市民目線だとどう変わったか、何が変わったのか説明できるものがあるのかというのが要旨であった。
- (委員) 市民に対して、説明しやすい、見えやすい現象は何かということか。
- (事務局) そうである。
- (委員) その意味では、机上配付資料のエイジフレンドリーシティ通信の中で、パートナー事業者表彰の記事があるが、秋田のような地方都市で、エイジフレンドリーシティを目指して、高齢者にやさしい取組を自主的に実施しようとする企業が出てきたということも進歩の一つである。市の取組が企業の意識醸成に貢献しているということは言えると思う。
- (委員) 私も同意見で、マンチェスター大学のソフィーさんの講演の中で、秋田市のエイジフレンドリーシティの特徴として、地元企業が協働

し重要な役割を果たしている」と明確に言っていた。エイジフレンドリーシティの取組により、パートナー企業がここまで拡大したというのは一つの成果と言えると思う。そのようにご説明していけば良いと思う。

(事務局)

補足ではあるが、この２点については、エイジフレンドリーシティを応援する意味で発言があったものである。目に見える成果をより市民に伝えていくために、委員の皆様からも意見をいただければと考えた。

(委員)

例えば、スタンプラリー事業の年代別、男女別の応募者数や割合を出しているのであれば、参加者データをもとにどのあたりの年代に意識付け出来てきているかなど、市の人口の動きなども見ながら説明していけばなお、効果があったとの捉え方はできると思う。

(委員長)

私も何度も言っているが、こうした事業はすぐに成果が出るものではないし、長年継続してきており、議員さんも応援の意味だということで長い目で見てもらいたいとお答えいただければと思う。

(３) その他について

(委員長)

次に、議事の(３)「その他」について委員から何かあるか。私からは、特にシニア情報サイト「プラっと」の閉鎖については、人々の情報の取り方が以前に比べて、年代に関わらずいろいろな形で情報を得られるようになってきているということを考えると、わざわざシニア情報と限ることもないかなとも思うので、時代に沿ってということでのよいのかなと思う。

ほかに無いようなので以上で議事を終了する。